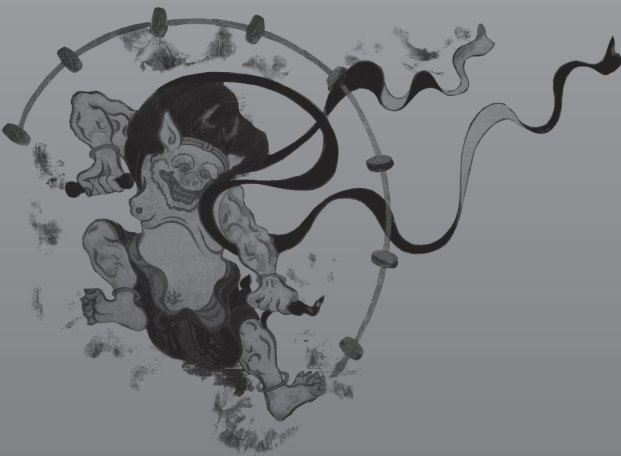




# 日本の歴史がわかる伝統文化



# はじめに

## 世界に誇るべき「日本の伝統文化」を学ぼう

いま、「日本の伝統文化」が見直され、世界各国から注目を浴びています。その一方で、私たちが知っているようで知らないことも多いのも事実です。

そこで、

- 「武士道」とは何か？
- 「歌舞伎」と「能」の違いは？

など、誰もが知っておきたい日本の伝統や文化を紹介し、仕事における「雑談力」に活かしたり、「日本への興味」のきっかけにしたりしていただくのが本書の目的です。

本書は、二部構成になっています。第Ⅰ部は、日本の伝統や文化について、わかりやすく説明します。

専門家になる必要はありません。知識の幅を広げるつもりで学習をすすめてください。先人の知恵の深さや、日本の伝統文化が世界に誇るべきものであることが身をもって理解できるよう、さまざまな分野を取り上げました。

第Ⅱ部は、昭和の歴史の教科書で習った事柄や、一般に常識といわれてきたことが、その後の研究によって覆った「日本史の新常識」を紹介します。

歴史の研究は日々、進化を続けています。いまは「仮説」や「推定」の域を出ないものも、新事実が見つければ「定説」になります。多くのエピソードから、歴史は固定化されたものではなく、「生きている」ことが実感できると思います。

私たちは、先人が積み重ねた歴史のうえに生きています。この日本がどのような歴史を経て現在の姿になったのか、そこではどんな文化が育まれてきたのか。本書を通して学びながら、日本とその文化について考察し、さらに興味を深めていただければ幸いです。

# CONTENTS

はじめに .....	3
------------	---

## 第Ⅰ部 誰もが知っておきたい「日本の伝統文化」 .....

1. 「日本」という国名の由来 .....	6
2. 日本の神様と仏様 ― 日本人の宗教観 .....	10
3. 日本の食文化の発展 .....	14
4. 日本の古典芸能 ― 歌舞伎, 能, 人形浄瑠璃, 落語 .....	18
5. 世界に誇る「浮世絵」 .....	22
6. 江戸時代のエコな暮らし .....	26
7. 「茶道」「香道」「華道」― 芸道を極める .....	30
8. 「武士道」とは何か .....	34
9. 「和服」の魅力を再発見 .....	38
10. 神事からスポーツになった「相撲」 .....	42
11. あらためて知る「日本語」の魅力 .....	46
■研究課題1 .....	50

## 第Ⅱ部 大人が知らない「日本史の新常識」 .....

1. 実は高度な文化を持っていた「縄文時代」 .....	52
2. いまは「大仙陵古墳」と記されている「仁徳天皇陵古墳」 ...	56
3. 厩戸王に呼び名が変わった「聖徳太子」 .....	60
4. 日本最古の貨幣は「和同開珎」ではない .....	64
5. 鎌倉幕府の成立は「1192年」(イイクニ)ではない? .....	68
6. 「織田信長」を巡るミステリー .....	72
7. 「生類憐みの令」は悪法だったのか .....	76
8. 「四十七士」が討ち入りをした本当の理由 .....	80
9. 江戸時代の身分制度「士農工商」の実態 .....	84
10. なぜ「明治維新」はうまくいったか .....	88
11. 「先の大戦」はいつはじまり, いつ終わったのか .....	92
■研究課題2 .....	95

# 第 I 部

誰もが知っておきたい  
「日本の伝統文化」

# 1

## 「日本」という国名の由来

### 「日本」はどう呼ばれてきたのか

日本

まずは私たちが暮らす「日本」がどう呼ばれてきたのか、時代を追って見ていくことにしましょう。

倭

卑弥呼  
魏志倭人伝

紀元前から中国の各王朝は、日本のことを「倭」と呼んでいました。これは<sup>ひみこ</sup>卑弥呼の存在に言及した『<sup>ぎしわじんてん</sup>魏志倭人伝』でお馴染みだと思います。魏志倭人伝は、3世紀末に中国で書かれた歴史書『<sup>さんごくし</sup>三国志』の中の「魏書」第30巻<sup>うがんせんびとういでん</sup>烏桓鮮卑東夷伝倭人条の略称で、倭（日本）の地理や倭人（日本人）の習俗などについて記されています。ここに登場する「倭」が当時の日本の呼び方でした。

「倭」は、背が曲がって丈の低い小人の意味を持つ文字で、その時代の世界の中心であった中国からすれば、アジアのはずれにある島国に住む野蛮で小さな人々のことを見下してこのように呼んでいたのでしょう。

紀元前後ごろから日本の政治勢力も外交時には、自国のことを「倭」または「倭国」と称するようになりました。たとえば、5世紀ごろ、「倭の五王（<sup>さん</sup>讃、<sup>ちん</sup>珍、<sup>せい</sup>済、<sup>こう</sup>興、<sup>ぶ</sup>武）」は、<sup>とうしん</sup>東晋や<sup>そう</sup>宋などの中国王朝へ断続的に朝貢（属国のしるしとして、貢ぎ物を贈ること）をしていましたが、その国書には「倭国王」と自称しています。

ヤマト政権

ヤマト

その一方で、「ヤマト政権」が統一されて以降（3世紀中ごろから後半ごろ）、日本では自国のことを「ヤマト」と称していました。

ところで昭和の教科書では、3世紀ごろから7世紀ごろにかけて日本列島の主要部を支配した政治勢力のことを「大和朝廷」としていましたが、平成の教科書では「ヤマト政権」となっています。これは、「朝廷」は天皇が中心となって政治を行う場所のことを指す言葉であり、そのころにそうした場所があったかどうかは確かではないため、「政権」という言葉を使うようになったことによります。

## 「倭」から「日出ずる処」,「日本」へ

5世紀後半ごろから約120年にわたって中国との国交が途絶えていた時期がありました。それが7世紀になると、中国を統一した隋<sup>ずい</sup>およびその後の唐<sup>とう</sup>に対して遣隋使や遣唐使を派遣し、その文化を熱心に取り入れるようになりました。

遣隋使 遣唐使

中国の歴史書である『随書』によれば、607年に聖徳太子<sup>しょうとくたいし</sup>（厩戸皇子<sup>うまやどの</sup>）が隋の煬帝<sup>ようだい</sup>に送ったとされる国書の書き出しは「日出ずる処<sup>い</sup>の天子<sup>ところ</sup>、書を日没する処の天子に致す。恙<sup>つつが</sup>無きや」でした。すなわち、自国を「日出ずる処」と称し、これまでの「倭」を避けた最初であると思われる。

聖徳太子  
(厩戸皇子)

日出ずる処

また『旧唐書』の「東夷伝<sup>とういでん</sup>」(945年完成)では、「日本」という名称が中国の書物にはじめて登場しました。そこには「日本国は倭国の別種なり。其の国、日の辺にあるを以ての故に、日本を以て名と為す」「或いは曰く、倭国自ら其の名の雅ならざるを惡<sup>にく</sup>み、改めて日本と為す」「或いは曰く、日本は旧小国<sup>もと</sup>、倭国の地を耕す」とあります。

旧唐書 東夷伝

つまり、「倭国と日本は別の国であり、日出ずるところに近いので日本とした」「倭国という名が優雅でないため、日本とあらためた」「日本はもともと小国だったが、倭国と併合した」など、倭国の名称が日本に変わった理由を説明しています。

## いつから「日本」という国号が使われるようになったのか

わが国が「日本」と称するようになったのは、7世紀末から8世紀初めだと考えられています。

『続日本紀<sup>しよくにほんぎ</sup>』(797年完成)によれば、702(大宝2)年に派遣された遣唐使は、唐が「大倭国」の使者として扱ったのに対し、「日本国使」であると主張したといえます。

続日本紀

その1年前の701(大宝1)年には、刑部親王<sup>おしかべしんのう</sup>や藤原不比等<sup>ふじわらのふひと</sup>らによって「大宝律令<sup>たいほうりつりよう</sup>」が完成し、律令制度による政治の仕組みがほぼ整いました。「日本」という国号が正式に用いられるようになったのは、このころだとするのが一般的です。

大宝律令  
律令制度